

▼最近までJKだった新妻が痴漢電車 で寝取られ絶頂!?

2022 カオティックちくわ

//トラック1

「ふああ……
こんな朝早くからお仕事なんて……」

「最近、忙しそう……
お仕事って、大変なんだね」

「でも……無理はしないでね。
綾香は、あなたの体が一番大切だから」

「はい、お弁当。
今日も一日、お仕事頑張ってね」

「いつてらっしゃいのちゅー、しょ？」

「んちゅっ……んっ、ちゅっ……あふうっ……
ちゅぶ……んんっ、れるる……はあ……」

「はあ……うう、寂しいよお……
でも、お仕事だもん。我慢するう……」

「いつてらっしゃい。
早く帰ってきてね、待ってます……」

「はあ……行っちゃった……
寂しいなあ……」

「最近、本当に忙しそう。
新婚なのに、全然一緒にいられないし……」

「……夜の方もおあずけで……
はあ……えっちしたいなあ……」

「だめだめっ！
あの人が一生懸命お仕事してるんだもん」

「新妻の綾香も、一生懸命家事しなくちゃ。
まずはお掃除……」

「きゃっ！？ びっくりした……。
あの人からだ……」

「あなた？ どうしたの？」

「テーブルの上の紙袋を、
会社に持ってきてほしい？」

「大事な書類が入ってるのね、わかった。
今すぐ届けに行くね！」

(間)

(以下、モノローグ)

「駅に来るの、久しぶりだなあ。
結婚してから、近所のスーパーくらいしか行ってないもん」

「あの人のこと考えて家事してると、一日終わっちゃう。
電車なんて、高校卒業してから乗ってないかも」

「そんなに前じゃないけど、
JKとお嫁さんじゃ環境が変わりすぎて、凄い昔のことみたい」

「あれ？ 駅、すごく混んでる……。
朝の通勤ラッシュって、こんなに凄かったっけ？」

「あっ、人身事故があったんだ……
うう、頑張らないと……」

「あうっ……そんなに、押さなくても……わ、わわ……」

「ふう……なんとか乗れた……」

「あ、あれ……
周りの人、サラリーマンばかり……」

「結婚してから、あの人以上の男の人に会ってないから
ちょ、ちょっと、怖いかも……」

「あ、ドアの横のところ、少し空いてる。
あそこに行ったら少しは……」

(モノローグここまで)

(肉声)

「す、すみません。通ります。
んしょ、んしょ……ふう……」

(モノローグ)

「やっぱり、ここは少し余裕があるなあ。
よかった～……」
(モノローグここまで)

(肉声)
「きゃんっ……！
あ……ご、ごめんなさい……」

(以下、モノローグ)

「と、突然お尻に、誰かの手が当たったから
びっくりして、声出ちゃった……」

「手、お尻に当たったままだけど……
こんなに混んでるんだもん、仕方ないよね」

(モノローグここまで)

(肉声)

「あっ……？ んっ……！」

(以下、モノローグ)

「嘘……！ 手が、もぞもぞって動いて……
綾香のお尻、撫でてる……」

「こ、これって、偶然じゃないよね。
う、後ろの人、痴漢さんなんだ……！」

「怖い……怖くて、体が動かないよお……
ど、どうしよう……！」

「やだ……っ！ 軽く触るだけだったのに、
掌で、べたって、お尻を触って、撫でてる……」

「うっ……ひっく……こんなこと……
にしか、されたことなかったのに……」

「知らない人が、綾香のお尻を揉んでる……
怖い、怖いよお……」

「綾香が抵抗しないから、エスカレートしてるんだ。
でも、怖くて声が出ない……」

「助けて……
怖いよ、あなた、助けてえ……！」

「やだっ、スカートめくられてる……！
だ、だめだめえっ！ パンツ見えちゃう……！」

「今日の……下着……」

あの人にも、まだ見てもらってないのに……」

「あの人の為に選んだ、可愛い下着……
も、もし……見られたら……はう……！」

(モノローグここまで)

(肉声)

(小聲で)

「お、お願いします……
もう、やめて……くださ……んっ！」

(以下、モノローグ)

「う……うそ……ば、パンツ、触られちゃった……
いやあ……なんで、こんな……」

「お尻のところ……全部レースになってる……
えっちなパンツ、触られてる……知らない人に……」

「あ……や……両手で揉む、なんて……
はう……手つき、やらしいよお……」

(モノローグここまで)

(肉声)

(小聲で)

「あ……や……ダメ……
はあ……やめて……ください……」

「あの……今なら……あっ……
だ、誰にも……言いません、からあ……んっ……」

(以下、モノローグ)

「なんで……綾香……感じちゃってるの……
あの人以外の……男の、人にい……」

「うう～～……こんなとこ、
もしあの人に見られたら、絶対嫌われちゃう……！」

「ヤダヤダ、そんなの絶対ヤダ……
綾香がエッチしたいのは、あの人だけなんだから……！」

「なんとかして、やめてもらわなくちゃ……！」

(モノローグここまで)

(肉声)

「ほ……本当に……あつ……いやあ……
お願い……お願いですから……これ以上は……！」

「きゃあんっ！」

(はっとして口を塞いで)

「んんっ！ ん……んんう……」

(モノローグ)

「おまんこ……触られちゃった……
あの人以外に、触られたことなかったのに……！」

(モノローグここまで)

(肉声)

(小聲で)

「だめ……そこは……
夫にしか……触られたことない……あつ……！」

(息を潜めて)

「あつ……そんな……指で……くすぐるみたいに……
されたら……ん……ふ……あ……ああ……んう……」

(モノローグ)

「何本も……指が……おまんこくすぐってる……
んう……こんなことされるの……久しぶりで……」

(モノローグここまで)

(肉声)

(息を潜めて)

「あ……や、んんっ……！ は……ああ……
お願いします……許して……ください……」

「綾香は……夫しか……男の人……
知らないんです……お願いします……」

「ひあ……っ！？ う、嘘……今、ぬちゅぬちゅって……
えっちな音、して……なんで綾香、濡れちゃってるの……？」

「あ、やっ、強く、しないで……はああつ……
くちゅくちゅ、聞きたくないのおっ……あ、ああつ……！」

(以下、モノローグ)

「あう.....パンツごしに、指でおまんこ開かれてる.....
恥ずかしいのに.....嫌なのに、こんな、気持ちいい.....なんて.....！」

「違うの、あなた.....こんなの、綾香じゃないから.....！
最近、ご無沙汰だったから、敏感に.....なってるだけで.....」

「綾香の身体を好きにしていいいのは、
あなた、だけ.....なんだからあ.....んんっ！」

「あっ.....やだ.....指が.....おまんこの間を擦ってる.....
探してるんだ.....綾香のクリちゃん.....」

「うう.....この痴漢さん、綾香の好きなどこばっかりいじめようとする.....」

「なんで、綾香がクリちゃんいじめられるの、大好きってわかつちゃうのお.....
あの人だけが、知ってるはずなのに.....」

「やあ.....だめ、ダメエ.....今、クリちゃん.....絶対に、
勃っちゃってるから、あう.....触られたら.....綾香.....綾香.....っ！」

(モノローグここまで)

(肉声)

(声を殺して)

「んんんっ.....！ んんっ！ んんんんっ！！」

「んんっ.....指.....止め.....てえ.....
あ.....つよ、いい.....あ、あ、あ、ああっ.....！」

(以下、モノローグ)

「あああん.....っ！ 男の人の指だあ.....
強くて.....太くてえ.....気持ち、いい.....」

「強い力で.....クリちゃんコスコスって.....
自分でするより.....ずっと.....いいよおっ.....！」

「あああああああ.....はあっ.....ああああんっ.....！
あ.....ああ.....くる.....すごいくる.....！」

「あの人じゃないのに.....！
ち、痴漢さんなのに.....！」

「もう、いっちゃう.....！
初めて、あなた以外の男の人で、いっちゃう.....！」

(肉声)

「きゃっ！？ あ……もう、駅……
ご、ごめんなさい！ 降りません、乗ります！」

(以下、モノローグ)

「ふう……降りる人に流されて、
乗りそびれるかと思っちゃった」

「……痴漢さん……もう、いないよね」

「……もう少しで、イキそうだったな……
すごい上手で、気持ちよくて……」

「ん……おまんこがまだ疼いてて、切ない……
はあ……あそこで終わって、残念……かも……」

「なんて、だめだめ！ 綾香は奥さんなんだから！
他の男の人にイカされたい……なんて絶対にダメ！」

「それにしても、痴漢なんてビックリしたなあ。
でも……まだ綾香に女として魅力があるってことだよね」

「あの人が最近えっちしてくれないの……
もしかしたら、忙しいからだけじゃなくって……」

「綾香がJKじゃなくなったからかも……って思ってたけど
まだ自信持っていていい……んだよね！」

(モノローグここまで)

(肉声)

「ああんっ……！」

(声を殺して)

「んんんっ……！」

(以下、モノローグ)

「ま、またお尻触られてる……！
イキそうで敏感になってるから、すごく感じちゃう……！」

「この触り方……さっきの人だ……
あう……身体が、覚えちゃってる……気持ちいいよお……！」

「だ、ダメ……！ 綾香はあの人のものなんだから……
手が当たらない位置に逃げなきゃ……！」

「もう少し、前の……隅の所に行けそう……」

少し進めば、手が届かなくなるかも……」

(モノローグここまで)

(肉声)

「ん……んう……よい……しょ……つと！」

(モノローグ)

「ふう……これで……
痴漢さんから逃げられたはず……」

(肉声)

「きゃ……あ……っ！ んん……っ！
やだ……何で、付いて来て……や……あん……」

(以下、モノローグ)

「う、うそ……背中にも……お尻にも……
ぴったり、痴漢さんの体が密着して……はうう！」

「お、お尻に……おちんちん当たってる……
硬くて……熱くて……おっきい……」

「あの人以上の……勃起ちんぽ……
あう……な、なんで……こんな立派なの……」

(モノローグここまで)

(肉声)

(小聲で)

「あ……あの……当たってますう……
ん……んう……や……擦り付けないでえ……」

「ああっ……！ あ……んふ……やあ……」

(以下、モノローグ)

「ひゃっ……スカート……めくれて……！？
お尻の割れ目に……おちんちん、ハマっちゃうよお……」

「はあ……この人のおちんちん、すごい……
こんなの……擦り付けられたら……ダメになっちゃう」

「自然に、お尻が動いちゃう……
おちんちん、もっとおっきくしたくて……」

(モノローグここまで)

(肉声)

「あ……ん……ふ……んう……
違うのお……体が、勝手にい……あっ……」

(以下、モノローグ)

「おちんちん、またおっきくなった……すごい……
お尻でこうするの、JKの頃、あの人に教わったんだよね」

「あう……綾香、あなたに教わった……あなたが好きな動きで……
痴漢さんの勃起ちんぽに……奉仕しちゃってる……」

(モノローグここまで)

(肉声)

(小声)

「あ……て、手が……
だめ……だめですう……」

(以下、モノローグ)

「手が……おまんこ撫でて……わかる……
これから、クリちゃん弄るよって、指で合図してる……」

「ダメなのに……期待しちゃう……
あなた、ごめんなさい……もう……！」

(モノローグここまで)

(肉声)

「んんうっ……！
は……はあ……はあ……あ……」

(モノローグ)

「クリ、すごくおっきくなってる……！
それを……指二本でコスコスしたり、挟んだりされたら……！」

「気持ちいい、もうだめ、いっちゃう……
痴漢さんの指で、いっちゃうよお……！」

(肉声)

「だめ……もう……
んうっ……！ んんんんんんんっ……！！」

「は……あ……いっちゃった……」

初めて.....あの人じゃない.....男の人で.....」

(モノローグ)

「ひ、久しぶりだからだもん.....
じゃなきゃ.....あなた以外の人に.....こんな.....ひう！？」

(肉声)

(小聲で)

「あっ.....ま、待ってえ.....
下着の紐.....解いちゃ.....！」

「夫の為に、えっちな下着選んだんです.....！
夫以外は、解いちゃだめ.....お願い.....やだあっ.....！」

(モノローグ)

「紐パンの片側ほどかれちゃった.....！
う.....ごめんなさい.....あなた.....！」

(肉声)

「ひゃ.....ん.....指、だめえ.....
綾香のソコに、直接触っちゃ.....んう.....！」

(モノローグ)

「パンツが緩んで.....下着の脇から指が入ってくる.....
今、クリちゃんを直接触られたら.....！」

(肉声)

「あっ、ああっ、指、凄いのお.....
あ、綾香.....また、いつ.....んんんんっ！！」

「は.....はあ.....あっ、指、待って.....
入り口は.....だめ.....本当にだめえ.....」

「そこは.....一生、夫だけがいいの.....
お願い.....あっ.....ひっく.....んんうう.....！」

(以下、モノローグ)

「指.....入っちゃった.....んう.....感じるう.....
痴漢さんの指に.....じゅぽじゅぽされて.....」

「お尻に当たってる.....
痴漢さんのおちんちんも.....もうバキバキ.....」

「指じゃなくて……
おまんこに、このおちんぽが欲しい……！」

(モノローグここまで)

(肉声)

「あっ……！ ナカのそっちは……だめ……！
綾香、そこ弱いから、触られたら……んんんっ！」

「指、やっ、止めて、お願い……んんっ、
また、また……んんっ、んんんんんっ……！」

「は……あ……もう……だめ……許して……
これ以上は……もう……」

(モノローグ)

「あの人以外の人のおちんちんが欲しくて……
我慢できなくなっちゃうから……」

(肉声)

「あっ……！」

(以下モノローグ)

「何で……そっち、違う……
んっ……おまんこじゃなくて、お、お尻に……」

(モノローグここまで)

(肉声)

「嘘……お、お尻は……くうううんっ……！」

(モノローグ)

「お尻の穴の周り……おちんちんで
擦られてる……！ 嘘……そこは……」

「あの人にいっぱい責められて、感じるようになったの……
そこで感じるのは、綾香の秘密なのに……！」

「な、なんで感じるってわかるのお……！？
変だよ……こんな……こんな……あう……」

(モノローグここまで)

(肉声)

「はあ……はあ……だめ……もう……声、我慢できない……
周りに、ばれちゃいますからあ……」

「お願い……もう、許してえ……！」

//トラック2

(肉声)

「はあ……ああ……」

(以下、モノローグ)

「あの人の会社がある駅……
まだいくつか先……」

「もし、それまでこの人が下りなかったら……」

「綾香……痴漢さんと……しちゃうの……？」
だめだめ、そんなの……でも……！」

「あう……綾香、おかしくなっちゃったのかな……
このおちんぼで……ハメハメされたくなっちゃってる……」

(モノローグここまで)

(肉声)

「あ……や、おっぱい……
揉み揉みしないで……はう……ん、や……っ！」

「あんっ……ふう……はあん……
綾香はおっぱい、揉まれちゃだめなんですう……」

「お、夫と約束したんですう……
綾香のおっぱいは、夫が揉んでおつきしたからあ……」

「他の男の人が、触りがつても、触らせちゃダメって……
約束、約束したのに……んんっ、はう、あ……」

「んんうっ……そこ、乳首……はうんっ……
コスコス、いやあ……んう……ああ……あふ……んん……」

「あう、あ……やっ……腰……動かさないで……
どっちも、されたら……綾香……変に、なっちゃいます……」

「あ、や、いやあ……音で、バレちゃう……！
お願いします……もっと、静かに……あ、あ、あっ！」

「うそ、いや……やだ、あ、綾香、イク、イっちゃ……
また、痴漢さんに……んうっ……ん、んんんんんっ……！」

「はあ……はあ……あう……はふ……
も……立ってられない……」

(間)

「……あ、ありがとうございます……支えてくれて……」

「……あ、あの……もう、満足ですね？
綾香……たくさん、イカされちゃいましたし……」

「あ、あの……そろそろ、
離して……もらえると……ひやうっ！」

(モノローグ)

「あ、そんな……先っぽ……おまんこの、入口に……
あ、んっ……や、だめ……だめ、なのに……」

「腰、勝手に動いちゃう……
おちんぼ、迎え入れようとして……はあ、あああ……！」

(肉声)

(小声)

「だ、だめっ、だめ……や……ひぐ、んん、んんんっ……！」

「は、入っちゃった……夫以外の、男の人の……
夫しか知らない、綾香の……お、おまんこに……！」

「こ、これ以上は……だ、だめ……
根元まで、入っちゃう……あ……そんな、深いっ……んううっ！」

「あ、あなた……ひっく、ひっく……」

ごめんなさい、あなた……あっ……んんんんっ……！」

(モノローグ)

「全部、入っちゃった……あの人しか男の人を知らなかったのに……
綾香、痴漢さんのおちんぼで犯されたんだ……」

「ごめんね、ごめんなさい、あなたあ……
綾香のおまんこが喜んでるう……」

「だ……だって……あなたのおちんぽみたいなんだもん……
あう……おまんこ、またきゅんきゅんしちゃう……」

「ずっと……寂しくて……綾香の指じゃ届かなかったところ、
痴漢さんの極太ちんぽで気持ちよくされちゃってるよお……」

「うう……あなたと初めてえっちした時は、
おまんこがおちんぽに馴染まなくて大変だったのに……」

「痴漢さんのは、すんなり入っちゃった……
長さも太さも……綾香の好きな、あなたと同じ形してるう……」

「この痴漢さん……前戯も上手いし……
おちんちんもおまんこにぴったりで……」

「もしかして、相性が良いってこと……？
そ、そんな……初めて会ったばかりなのに……どうして……」

「これじゃ、綾香……行きずりの痴漢さんとの浮気エッチで満足しちゃう、
変態さんみたいだよお……綾香、そんな子じゃないのに……」

(モノローグここまで)

(肉声)

「ああんっ……！」

(小聲)

「や……やめ……あ……ん……腰……動かさないでえ……
はあ……ん……だめ……ですう……こ、こんなあ……」

「あん……おっぱい、離してえ……
おっぱい揉みながら、奥も……なんてえ……」

「あっ……くう……ん……だめ……だめえ……
やあ……ん……やめて、くださいい……」

(モノローグ)

「痴漢さんのおちんちんが、おまんこジュポジュポしてる……
どうしよう……本当に、セックス始まっちゃったよう……」

「綾香、おっぱい両手で掴まれて、腰振られて.....
電車で.....痴漢さんにレイプされてるんだ.....」

「あの人以外とエッチなんて、嫌.....
あの人以外の男の人なんて、知りたくなかった、のにい.....」

「奥のイイところ.....赤ちゃん部屋の入り口を
バックからゴチュゴチュされてるう.....」

「綾香の、一番好きなところ.....指じゃ届かない.....
奥をちんぽで突かれるの、大好きい.....」

「あの人ができるみたいに、パン、パンって音がするくらい
激くされるのが、一番好きだけど.....」

「綾香の一番弱いところを先端でゴリゴリしながら、
おっぱい揉んで、乳首コリコリされてえ.....」

(肉声)

(小声)

「はあ.....はあ.....ああ.....んんう.....
は、離して、くらひゃいい.....らめ.....らめなのお」

(以下、モノローグ)

「気持ちいいけど.....だめ.....
あの人のために、ちゃんと拒否しなくちゃ.....！」

「少しでも、体を離さないと.....！」

(モノローグここまで)

(肉声)

「ん.....んう.....これ以上は、もう.....
本当に、ダメですから、離して.....」

(モノローグ)

「電車が揺れるう.....身体がぐらぐらして.....
おちんぽが擦れて.....感じちゃう.....！」

(肉声)

「ひゃあんっ！」

(以下、小声で)

「んんう.....今、奥、おちんぽがごちゅってえ.....」

「はうっ……！ だ……めえ……
電車揺れると……擦れちゃう……」

「ひゃっ……んんっ……！ ふう……
はあ……はあ……これ、だめ……」

「次、ナカのどこに当たるかわからなくてえ……
不意打ちで当たるの、き、きもち……」

「んんっ……！
はっ……綾香、もう……も……もう……」

「次、ガタンってきたらあ……
だめ……だめなのに、綾香……くうん……」

「綾香、イっちゃう……かもお……
やだ、やだよお……はうう……ひつく……」

「次で、い、イっちゃう……
夫じゃない人のちんぽで、初めていっちゃうよおお」

「ひゃううっ……んんんんう……んんんんっ！！」

「はあ……はあ……ひつく……ひつく……
綾香、イっちゃった……痴漢さんのちんぽで……」

「あなた、ごめんなさい……ごめんなさいい……」

「あっ……！ ふう……んんっ……ま、待ってえ……
い、いったばかりだからあ……動かないでえ……」

「んう……おちんぽ……おっきい、ですよ……
奥まで……ごちゅごちゅって、当たっててえ……」

「太くて……硬いから……ナカ、ごりゅごりゅって
擦れてえ……ふう……あっ……気持ちいい……」

(ここまで小声)

(モノローグ)

「あっ……！？ 綾香のばかばかばか～！！」
い、いくら気持ちいいからって、痴漢さんに何言ってるの～！？」

(肉声)

(小声)

「あっ……ち、違うの……
綾香は……あの人のものだからあ……」

「他の男の人のおちんぽ、気持ちいいなんて、
言っちゃだめ……なんですう……でもお……」

「そ、そこ……奥の、そこ、好きですう……
んくう……はあ……本当に、太いですね……」

「根本のところ……すごく太くて……
綾香の浅い所……もう広がらないくらい、パツパツで……」

「奥も……入り口も……綾香のおまんこ全部……
おちんぽでいっぱい……気持ち……いい……」

「ひゃうんっ……おっぱい、そう、それ、好き……
乱暴なくらい、揉んだり、乳首、スリスリされるのお」

「はあ……はあ……感じ……ちやうよお……
だ、だってえ……久しぶり、なのお……」

「あの人、お仕事忙しくてえ……寂しくてえ……
新婚なのに、綾香、自分でしてたんですう……」

「は……はあ……でも……綾香の指じゃ、届かないし……
おまんことおっぱい一緒に好きなのに、無理だからあ……」

「ふう……あん……おちんぽで……男の人の力で……
ずっと……エッチしたかったんですう……」

「ふっ……ひっく……ひっく……で、でも……
あなた以外の人とは、一生したくなかったよお……」

「あなたとしか、えっちしたことない体で、生きたかったのにい
ふっ、あう、体を感じる……感じちやうよお……」

「ああっ……！」

「ど、どうしてえ？ 綾香、ナカのそこも好きだって、
どうしてわかるのお……？ だ、だめ、そんなにしちや……」

「またイっちゃう……くう……ふう……んっ……
やらあ……やあなのお……もうイキたくないよお……」

「あの人のおちんぽでイキたいのお……
おっぱい揉むのも、おまんこに挿れるのもあの人がいいよお」

「あう……待って、待ってえ……
強くしないで、イイ、イイからあ……ああっ……」

「うう、知らない人なのに、痴漢さんなのに……
感じちやう……やだあ……もうやらよお……」

「や……なのにい……綾香の体、あの人に開発されてるから……」

弱いところ責められたら、感じちゃうよお……」

「あなたとえっちする為に、感じやすくなったのにい……
痴漢さんのちんぽで……綾香……いっちゃいますう……！」

「ふうっ、くうううううんっ……！」

「ああ……は……はあ……はあ……」

(以下、モノローグ)

「また……イっちゃった……」

「でも……どうして、綾香の弱い所とか……
好きな強さとか、動きとか……わかるんだろう……」

「すごい上手な人だと、わかるものなのかなあ。
あの人しか知らないから、他の人がどうかとかわからないよお」

(モノローグここまで)

(肉声)

(小声)

「あっ……！ まだ、動かないでえ……イったばかり……
はう……敏感なの……お願い、お願いい……」

「ああっ……はあ……腰……早いい……
激しい……ですう……お願い、待ってえ……」

「少しだけ……休ませて……気持ちいいからあ……
待って……待ってえ……ああ……はあんっ……」

「んんっ……おちんちんがあ……ドクンドクンって……
い……イキそう……なんですか……？ い……く……」

「あっ……、だ、だめ、出しちゃダメ……
それは、本当にだめ……お願い……抜いてくださいい……」

「ああっ……んう……やだ……腰、そんなにされたら……
綾香も……イっちゃう……はうう……あああ……」

「はあ……ねえ……ぬ、抜かなくても、いいです……
あう……んんっ……は、はあ……このままで……」

「綾香のおまんこで、ちんぽゴシゴシして、いいです……
こんな……おちんぽパンパンになってたら……」

「辛い……ですもんね……綾香もイキたい……
だから……このまま……綾香のおまんこ使っていいよ……」

「でも……外で出して……綾香のどこに掛けてもいいから……
ナカだけは……だめ……だめなのお……」

「先っぽ、赤ちゃん部屋に届いてるのお……
こんな巨大ちんぽにナカ出しされたら……」

「こんなパンパンの精子、びゅーびゅー出されたら……
妊娠しちゃう……赤ちゃん出来ちゃう……」

「お願い、お願い……外に……外に出して……」

「は……はう……あっ、ああっ、あうっ、
あ、ああっ、イイ、好き、そこ好き、好き……」

「ね、ねえ、お願い、お願いです、うんって言って……
外に出すって約束して……んんんっ……」

「はあ……精液……上がってきてるんでしょう？
わかる……わかるくらい……量……凄いの……」

「はあ……おちんちん、熱い……硬い、おつき……
おまんこ、壊れちゃうよお……気持ちいい……」

「あ、ああっ、で、出る？ 出ちゃうの……？
やら、こんなたつぷり精子来たら、赤ちゃん出来ちゃう」

「ふ……あっ……あなた……あなたあ……
ごめんなさい、ごめんなさい……」

「お嫁さんにしてくれたのに……
綾香……痴漢ちんぽに負けちゃう……」

「極太ちんぽの精子、赤ちゃん部屋に出させちゃう……
ごめんね……あなた……あなた……愛してる……」

「は……はあ……もうだめ……
いく、いく、いくいくいく……っ！」

「んんんんんんんんんん……！」

「あっ……！ きゃあっ、出てる……ナカに出てる……
熱い精液、びゅくびゅく奥にかかって……すごい量……」

「こんな……こんなの……子宮が喜んでる……
あっ……キュンキュンする、またイっちゃう……」

「も、もうだめ……声、我慢できない……！
気持ちいいもん、あっ、まだ出るの？ 出るよね？」

「綾香もまたいく、イっちゃう……」

「ん~~~~~~~~！！

んうっ、ん~~~~~！！」

(以下、モノローグ)

「ナカに、ナカに精液出てる.....
おちんちんビクビクして、ビュルルって精液、奥に掛かって.....」

「熱くて、んうっ.....！ 赤ちゃん部屋に入ってくるう！
凄い量.....はあ.....イイ.....子宮が喜んでるう.....！」

「お腹がきゅんきゅんする.....もっと精子欲しくて
ナカ締まっちゃう.....あ.....またくる.....くるう.....！」

(モノローグここまで)

「ああっ.....！」

(以下、口を塞がれ)

「むぐつつ.....」

「んんんんんんんんんんんんっ.....！！」

「んう.....ふう.....ふう.....」

(以下、モノローグ)

「口、塞がれてる.....
鼻まで覆われて、苦しいよお.....」

「あ.....痴漢さんの顔が見られそう.....
目が合ったら、苦しいって伝わるかな.....」

「.....えっ！？」

(モノローグここまで)

(肉声)

(小声で)

「もう.....何やってるのよ.....あなた.....」

「.....どうして、痴漢のフリなんかしたの？」

//トラック3

「あなた.....どうしてこんなこと.....
ううん.....今は、そんなこと、いい.....」

「このまま.....お仕事行っちゃうの.....？
綾香、今すぐ、もっとあなたが欲しいよお」

「.....うん！ ラブホテル、行こ？
嬉しいよお、すぐ、すぐに行こう」

(間)

「やっと、二人きりだね……んむっ」

「んちゅ……ちゅ……じゅるる……ふう……ん……
ん……いってらっしゃいのちゅーみたいにい……ちゅぷ……」

「もう我慢なくていいんだよね……んう……
もっと……もっと凄いキスしよ……んくうっ……！」

「じゅるるっ……！ んふうっ……
あな……たあ……んう……ちゅぷ、くちゅくちゅ……ぷはっ」

「んちゅ……ふう……くちゅ……ん？
んー……確かに、あなたの為に選んだ下着だけど……」

「下着姿を……そんなじっと見られるの……
恥ずかしいよお……ね、この下着、好き、かな？」

「よかったあ……え、綾香が脱いでるところ見たいの？
恥ずかしいけど……あなたがそう言うなら……」

「ブラのホック……外したよ。ぷ、ブラ、脱ぐね……」

「うん……、乳首……勃起てるよ……
あ、あんなにいじめられたし……期待してるし……」

「それに、はしたないって思わないでね……？
ほら……」

「見て……パンツの中……白いえっちなお汁で、
ぐちょぐちょに汚れちゃってるでしょ……」

「全部……綾香のおまんこに……ナカ出しされた……
あなたの……精液です……」

「ちょっとお……嬉しそうにしないの……
全部あなたのせいなんだよ……？」

「もー、悪い人ね……
そんなにえっちな綾香、好き……？」

「ふふ……じゃーあ、綾香が
たあっぷりお世話してあげないと、だね……♪」

「はい、ばんざーい。
お洋服脱ぎ脱ぎしようね～～」

「じゃあ次は……ベルト、外すね……」

「んしょ……えっと、次は……チャック……下ろすね。
あ、あの……もう、おつきくなってる……よ」

「チャック、痛くないように、ゆっくり下ろすね。
ん……もう、開け辛くなってる……んしょと……」

「じゃあ、次はパンツを……わっ……
ふふ……もうこんなに勃起してるんだ……」

「きゃっ……狼さん……
あなたも、我慢できなくなっちゃったの……？」

「やった……おんなじだね……電車の中だと
いっぱい声、我慢しなきゃだったから……」

「綾香のこと、うんといじめて……？」

「んちゅ……はあ……ちゅ……んちゅ……」

「もっと、キス……んう……もっとお……
あなたとベッドでキスするの、久しぶりなんだもん」

「え、限界？ ひゃんっ！ ほ、ほんとだ……
おちんちん、もう、パンパンだね……苦しそう……」

「一回出したい……。そうだよ、わかった。
綾香が手伝ってあげるから、いつ出してもいいよ」

「はあ……あなたのおちんちん見るの、久しぶり。
くんくん……ふふっ、あなたの匂い……好き……」

「綾香のおっぱいで挟んで、ゴシゴシしてあげる。
んしょ……わあっ、もう我慢汁が……ヌルヌル……」

「んしょ……んしょ……あなた、いっぱい綾香とえっちして……
綾香のおっぱい、こんなにおっきくしてくれありがとう」

「ん……だってえ……あなたのおちんちんを、こうやって……
おっぱいでグチュグチュってしてあげられるもん」

「綾香、処女JKだったのに……あなたが……
綾香の体を変えて、キスもえっちも教えてくれたのお」

「あなたが教えてくれたから……
綾香……ね、見てて……くちゅくちゅ……えれ……」

「んっ、こうやって、唾いっぱい垂らして……滑りを良くして……
おっぱいもっと激しく……出来るよ……！」

「気持ちいい！？ 嬉しい、もっとしてあげる……！
んっ、ふうっ、ふうっ、ああっ！」

「啜えて、ほしい？ うん、いいよお……。
ぐちゅ、じゅぷっ、じゅるるるるるるっ！」

「一人で、綾香がどうやってたか……？ そんな……
あ、あなたが教えてくれた通り、だよお」

「あ、綾香がJKの頃に教えてくれた一人えっち……
他のやり方なんて知らないもん、あの通りにしてるんだよお」

「やってみせたら、許してくれるの？
わかった……するから……見ててね……」

「んっ……こうやって……自分で……おっぱい揉んで……
乳首……摘んで……ふう……」

「あ、脚、かばあって開いて……蜜……指につけて……
クリちゃん、いじめて……じ、自分で、指、挿れて……」

「はうっ……んんっ……あ、あなた……ね、見てないで……
おっぱい、舐めて……約束したあ……お願い……あんっ！」

「ふああっ！ 乳首、舌でクリクリされるの……好きい……
あっ、あなたに乳首吸われるの、好き、好き！」

「はあっ、自分でするより気持ち良すぎて、指止まらない……
やあっ、こんな濡れて、グチョグチョ音がしてるう」

「一人でするのと、全然違うよおっ……！
一人でしてる時も、あなたとのえっち、想像してるのにい」

「あっ……ねえ、イク、イっちゃう、やだあっ！
綾香、自分の指でイクのやああっ！ あなた、あなたあっ！」

「ふああっ……口離しちゃ、おっぱい淋しい……
え……おまんこ、舐めてくれるの……？ おねだり、したら？」

「あなたあ……綾香のおまんこ、舐めてくださいい……！
はあ……おまんこの中も、クリちゃんも、全部舐めてえ……！」

「ああああああああんっ！ はあっ！ あああああんっ！」

「ああっ、イイ！ イイ！ ああああああああっ！
クリちゃん、ペロペロ、はむはむ、されるのもお……」

「穴に舌入れられるのも、好き、好き、はあんっ！
あああああああっ！ ずっと、ずっと待ってたのおっ！」

「はあ……うん、うん……寂しいおっぱいはあ、
綾香が自分で、くううんっ、いじ、いじりますう」

「はあんっ！ あなた、あなたあっ！
ああっ、イク、あなたの舌で……好き、好きいいいいっ！」

「ああああああああああああんっ……！！」

「はあ……はあ……もう……今日、イキすぎて……
膝……もうガクガクだよお……」

「はあ……ベッドであなたに抱きしめられるの、好き……
ねえ……おちんちん、硬いの、当たってるよ……」

「うん……付けないでいいよ……ナマでして……
綾香……もう、ゴムつきセックスなんて出来ない……」

「もう、焦らさないで……早く、来てえ……！」

「ああっ、入ってくるうっ！ ああああっ！
ああっ、あなたの勃起ちんぽ好き、好きいっ！」

「あっ、ああっ、激しいっ！ 嬉しい、嬉しいよおっ！
あなたのおちんちんがっ、赤ちゃん部屋に当たってるうっ！」

「はあっ、これ、これが欲しかったのおっ！
ああっ、気持ちいい、気持ちいいよおっ！」

「ああ、よかったよお、痴漢さんがあなたで……
あなた以外に、感じたり、したくなかったからあ」

「綾香はあ、あなたの、あなたのものなのおっ！
処女JKだった綾香はあ、あ、あなたにいつ！」

「キスも、えっちも、フェラも、教わったの！
あなたとえっちして、おっぱいおっきくなってえ」

「ナカも……お尻も……感じるし……
一人えっちもしちゃう、えっちな子になったのおっ！」

「全部、あなたが教えた、あなたが開発した体なのおっ！
綾香は、他の男なんか要らない、あなただけだよおっ！」

「あんっ、ああんっ！ あなたのちんぽで感じて、
綾香は、あなたのちんぽで、イくのおっ！」

「な、なんにも知らなかった綾香はあ、
あなたのちんぽに、体、作り替えられてるのお」

「あああっ、あああんっ、はあ、ああっ、
あんっ、そう、そうやって、ガンガン突かれるの好き！」

「で、電車で、痴漢のあなたに犯されるの、興奮したけど、
こうやって、激しくされてえっ、はああああんっ！」

「ああっ、声も……あうっ、我慢しないで……
おちんぽ舐めて、おまんこ舐められてえ……」

「はあ……二人で、ドロドロになるの、好きいっ！

「はあ、ああつ、ずっと、こうしたかったあ」

「あなたのおちんちんで、おまんこ、突かletたくて、
ずっとずっと、寂しかったあつ！ ああつ、幸せ！」

「あなたに、抱かれて、幸せえっ！
はう、ああつ、おちんちん、おつきくなつてくう！」

「はあつ、あなたの生ちんぽ、気持ちいいよおっ！
ナマ、好き、気持ちいい、はあんっ、あなたあつ！」

「好き、好きいつ、キス……キスして……」

「んふうううっ！ くちゅ、じゅるるるっ！
ぷはあつ、じゅぷっ、んんっ、んふうっ！」

「ああんっ！ おっぱい、揉まれるの、気持ちいいっ！
おまんこも、おっぱいも、愛してえっ！」

「はあつ、はあつ、あなたあつ
愛して、愛してるよお……もつと、キスう……んうっ！」

「んんっ、んんんっ、んんふっ、ふあつ、じゅぷっ、
んんんっ、ぷはあつ、んむっ、んふうっ！」

「ぷはあつ、ああつ、もう……イク、綾香、イク……
ああつ、嬉しいよお、あなたのおちんちんでイケるの……」

「綾香、一人でイカなきや……だめえ？
あなたも、一緒に、イってくれる……？」

「はあ、一緒にいい、一緒にいこう……？
はあ、はあ……綾香のおっぱいとおまんこで……」

「いっぱい、おちんちん気持ち良くなって……
ナマまんこに、ナカ出しして、精子びゅーびゅー掛けてえ」

「はあ……ああんっ……うんっ、うんっ……！
赤ちゃん作ろ……あなたの赤ちゃんほしいよお……」

「綾香が妊娠するまで、いっぱい精液出して……
あなたの精液で、綾香の子宮いっぱいにしてえっ！」

「あつ、ああ、もう、綾香、イク、イク……！」

「あ、あああああああああああああああつ！
あああああつ！ ひゃああああああああああん！！」

「あああああつ、熱いつ、精液、精液出てるうっ！
はあつ、好き、あなたの精液好きだよおっ！」

「んんっ、濃厚精子が、綾香の子宮に入ってくるう……」

んう……お腹、あったかあい……」

「……あつ、離れちゃいやだよお。
まだ抜かないで？ このまま、だっこしてほしいな」

「ありがとう……、綾香のわがまま聞いてくれて。
ずっと寂しかったから、こうして繋がってたいの」

「んふふっ……ありがとう……大好き……
愛してます……ちゅっ……」

(間)

「そういえば、今更だけど……お仕事は？
え？ 今日是有給取ってある？」

「ええっ！？ 綾香と痴漢プレイしたくて……
今日までお仕事詰めて頑張ってたのお！？」

「じゃ、じゃあ書類を持ってきてって電話したのは……
え、それも嘘なの！？」

「はあ……もう、ばかばかばかー！
綾香、本当に寂しかったんだからね！」

「それに……あんなに無理して、体壊したらどうするの？
本当に、心配してたんだからね！」

「わかってくれたなら、いいよ。
え？ ち、痴漢プレイの感想？」

「そ、そりゃ……す、すごい感じちゃったし……
あ、あなたがしてくれてたってわかったら……その……」

「スリルがあって、あれはあれで、たまにはいいかなー？
なんて……はい……」

「はうう……綾香、どんどんえっちな奥さんになっちゃうよお。
痴漢プレイまで……好きになっちゃって……」

「……責任、取って、綾香のこと……
いっぱい愛してくださいね、あなた」

「うふふっ、だーいすき！」

//ボーナストラック

(モノローグ)

「また、来ちゃった.....後ろに.....あの人.....
うん.....痴漢さんがびったり立ってる.....」

「もう.....おちんちんが勃起してる.....
綾香のお尻に.....痴漢さんのちんぽが押しつけられてるんだ.....」

(肉声)

(小聲で)

「.....また.....ですか.....？」

「あ.....あの.....おちんぽ、擦り付けないで.....
スカート.....めくれちゃうからあ.....」

「はあ.....はあ.....だめ.....下着.....出ちゃう.....
あっ.....お尻.....手で.....触らないで.....っ！」

「ん.....あ、あの、違うんですう.....はいてます.....
てい、ティーバック.....ですけど.....」

「ひうっ.....割れ目、触っちゃ.....いや.....
だめ.....今日の下着.....恥ずかしいやつなんですう.....」

「は.....指で.....あそこ広げないでえ.....
今日のパンツ.....お股のどこ、空いてる.....から.....」

「あ、あそこ広げられたら.....パンツごと.....
くばあって.....開いちゃうんですう.....だめえ.....」

「ふああ.....だめ.....お尻まで広げちゃダメ.....
このパンツ、お尻の穴まで、お股のどこ割れてるからあ.....」

「んうっ.....お、おちんぽ.....割れ目に当たってますう.....
お尻のそこ.....おちんぽで直に擦らないでえ.....」

「ふ.....んんっ.....だめ、だめですう.....
夫がくれた下着で.....夫が、着けてって言ったの」

「夫のため、なんですう.....
ちか、痴漢の為なんかじゃない.....」

「やめて、お願い.....擦らないでえ.....
も、もう、知ってるでしょう.....？」

「あ、綾香.....お尻、擦られると.....
濡れちゃうって.....んふうっ.....やだ、やだあ.....」

「あ.....やだあ.....おちんぽの先でえ.....」

ヌレヌレおまんこ……グリグリしないで……！」

「や、やだ、は、入っちゃう……やだあ……
あつ、で、電車……電車揺れてますからあ……」

「ほ、本当に入っちゃう……生ちんぽ入っちゃう……
やだ、やめてえ……んん……やだあ……っ！」

「あつ……！ ん、んんんんっ……！」

「やだあ……抜いて、抜いてください……
全部挿れちゃ嫌、嫌ですう……お願い……んんんっ！」

「んっ、んんっ、奥、奥のそこ……そこ……っ！
んんっ、はう、あつ……んんんうっ……！」

「はあ……はあ……や……もう……知ってますよね……
綾香、奥の、そこお、弱いのお……」

「はう……やだあ……痴漢、なのにい……
あつ、あふうっ、あんっ、あんっ……！」

「そ、そんな……綾香の好きなところばかり……
されたら……綾香……このまま……もう……！」

「んんんんんんんんんんっ……！
んふううううううううっ！」

「はあ……はあ……イっちゃった……
んう……待ってえ……腰、止めてえ……」

「イったばかりだからあ……敏感なの……
あなたのおちんぽ……もっと……感じちゃう……」

「あつ……んう……おっぱい、触らないで……
今日……ノーブラなの……触っちゃだめえ……」

「はあっ……あんっ……ああんうっ……
おっぱい、その触り方、好き……あつ……！」

「乳首、ぎゅってしちや……ああっ、んふううっ、
お、おまんこ締まっちゃう……！」

「はあ……もっと……優しくして……
あ、綾香……ノーブラ、恥ずかしかったの……」

「恥ずかしかった、けど……この方が……
痴漢さんが……触りやすいかなって……」

「ち、痴漢さんにい、乳首クリクリしてほしいって、
き、期待……期待して……ブラしなかったの……」

「ねえ、ねえ、痴漢さんの……ためにしたの……
だから……ね……もっと……優しく……」

「あっ……やだ、ブラウスのボタン……外しちゃ……
おっぱい、おっぱい出ちゃう……」

「はあ……はあ……全部出ちゃった……
周りから、み、見られちゃう、綾香のおっぱい……」

「あっ……！ 冷たい……！ ドアの窓に……
おっぱい押し付けるの、ちょっと、苦しい……」

「でも、こうしてたら……
周りからはおっぱい見えないかも……よかった……」

「はあ……冷たくて、乳首もっと立っちゃう……
気持ちいい、はあ、あっ……！」

「腰、はげし、激しいですう……！
そんな、押されちゃ……く、苦し……！」

「はんっ、あんっ、嘘、嘘ですうっ……
苦しいだけじゃなくて……き、気持ちいいですう……！」

「あっ……？ あっ、やだ、電車が……！」

「あっ……！ う、嘘……！」

「電車が、すれ違ってく……！
あ、あふっ、ああっ、見られてる、ああっ……！」

「今、男の人、びっくりして、綾香見てたあ……
あっ、今の人も、あふっ、あっ、またあ……！」

「何人にも、見られちゃったよお……
うっ、ひっく、は、恥ずかしい……！」

「あっ、あうっ、ど、どうしよう……
ば、ばれちゃったかなあ……」

「綾香が……痴漢されたくて……
おっぱい出して……ハメハメされてるのお……」

「はあっ、う、嘘、おちんぼ……おっきくなりましたよ……
綾香のおっぱい見られたの、興奮しましたか……？」

「はあ……あっ……おちんちん、おっきくて……
き、気持ちいい……ああ……また電車来る……」

「痴漢さんが、嬉しいなら……
綾香……み、見られてもいい……！」

「次からは、気を付けないと……
見つかったら、大変だもんね……」

「あ……あう。
それは……次も、期待するよ……」

「だって綾香……痴漢されるの……
その……好きになっちゃった……というか……」

「あ、ちがうよ！？
もちろん、あなたにとって意味だからね」

「綾香を気持ち良く出来るのは、
綾香のこと何でも知ってるあなたただだもん」

「あなたも、他の人にしちゃダメだよ？」

「綾香……頑張って、どんなえっちなことだって、
叶えてあげるから……」

「これからも、綾香だけを可愛がってね。あなた♡」

END